

あなたと博物館

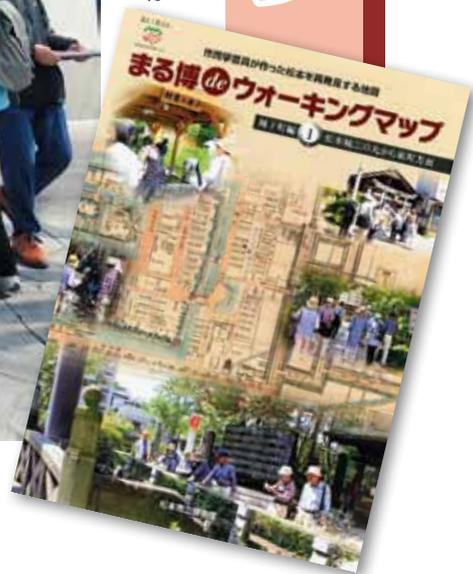
松本市立博物館ニュース No.198 2015.5.1



上土の旧松本市役所跡で

まる博deウォーキング

「美ヶ原から槍ヶ岳まで松本は屋根のない博物館」のキャッチフレーズのもと、平成26年度に市民学芸員と博物館が協働で作った地図を片手に、市民学芸員が松本市立博物館周辺のさまざまな見どころを案内しました。



もくじ	博物館TOPICS	◇ まる博deウォーキング.....	2
		◇ 重要文化財旧開智学校校舎 教育博物館開館50周年.....	3
		◇ ひとの動き.....	4
	ガイドコーナー	◇ はんてんぼく.....	4

まる博 de ウォーキング

松本まるごと博物館構想のもと「市民と創る博物館」を目指す当館では、その具体的な取り組みとして市民学芸員と協働で行う事業を展開しています。

まる博 de ウォーキングは、「美ヶ原から槍ヶ岳まで松本は屋根のない博物館」というキャッチフレーズを具現化する第一歩として企画され、平成 27 年 3 月に第 1 回のウォーキング講座を開催しました。この事業は、博物館と協働で作成した専用の地図を使い、市民学芸員が市民を対象に松本城下町の魅力を案内するものです。

地図づくり

事業は、ウォーキング講座で使う地図を市民学芸員と協働でつくるところから始まりました。この地図は、博物館施設を基点に周辺の歴史・民俗・自然など様々な見どころを巡るものです。はじめに市民学芸員とともにエリアの選定をしました。今回は、市立博物館周辺をめぐる初回ということで博物館の南東側、松本城三の丸から松本城下町の一部を対象範囲



とししました。そして、市民学芸員が地図に載せたいと考える項目を持ち寄り、9月に数回、現地調査を行って掲載項目を確定するとともに、モデルルートを決めました。

モデルルートは、市立博物館をスタート地点に文化財などを観ながらあるいて概ね2時間程度(2kmと2.5km)で設定しています。

A コース (総堀の跡をたどるコース)

このコースは、松本城の総堀跡をたどるコースです。かつて城をとりまいていた総堀の大部分は、大正時代頃に埋め立てられました。現在、かつて堀があった場所には建物が建ち並び、堀の姿を想像できるものはほとんどありません。ここでは、四柱神社の御幸橋と池や水路などわずかに残る痕跡から堀がどのあたりにあったのかを見ていきます。水路は、

堀からはじまっていますが、途中でくみあげた地下水が流入するためきれいな水が流れています。また、松本城とその周辺は、江戸時代は藩校、明治以降もさまざまな学校が建っていました。学校があった場所に建つ石碑をめぐり、学都松本の一部を知るコースとなっています。

B コース (武家地から町人地を横断する)

このコースは、松本城三の丸から町人地まで横断するコースです。かつて辰巳御殿があった場所をぬけ、旧市役所庁舎をイメージしたデザインの建物やガス灯のある橋など大正ロマンの上土から東へ向かうルートです。城下町に点在する湧水、城下町の守護や里程の基準とした東の十王堂跡、町人地を南北に流れて、かつてその川の水で紙を漉いたといわれる紙漉川^{かみすきがわ}など、各所で城下町の痕跡をめぐる。

ウォーキング講座の開催

3月22日に開催したウォーキングは、一般参加者22名、市民学芸員11名で行われました。今回のウォーキングは、市民学芸員はA・B各コースに4～5名ずつ、一般参加者は11名ずつに分かれて行いました。コースの長短はありますが、どちらも2時間程度で博物館まで戻ってきました。



今回の行事を通して参加者からは、「よく街には来ているが、自分が知らない事がいろいろある事がわかり新しい発見ができた。」「別の地区でもこのような催しをしてほしい。」などの感想が聞かれました。

市民学芸員からは、「拡声器を使えばよかった。」「下見の回数はもっと増やしたほうがよい」、「次の地図は、すぐに現地調査に入ってもっと内容の濃い地図をつくりたい」、「参加者の意見を聞きながら案内するとより多くの話題に発展できそう」などの意見が聞かれました。

今回の地図は松本市立博物館の周囲でもまだ4分の1程度です。また、当館の他に14の分館があります。これからも博物館では市民学芸員とともに各地の様々な見どころを巡ってもらうための情報をより多くの人たちに紹介していきたいと思えます。

(山と自然博物館 学芸員/小原 稔)

重要文化財旧開智学校校舎 教育博物館開館 50 周年

今年の4月1日、旧開智学校に塔屋の鐘の音が響き渡りました。旧開智学校が教育博物館として開館して50年を迎えたことを記念した鐘です。昭和40年(1965)4月1日に教育博物館として開館して半世紀が経過しました。今年は、教育博物館50周年として様々な記念事業を計画していますが、ここで50年前の様子を簡単に振り返ってみたいと思います。

小学校から重要文化財に

旧開智学校は昭和36年に国重要文化財に指定されました。明治9年(1876)に建築されて以来、90年近くも現役の小学校校舎として使われ続け、現役の小学校のまま重文指定を受けました。現在、重要文化財に指定されている近代学校建築は42件ありますが、旧開智学校はその中で初めての指定です。指定理由は「明治初年に建築された和洋混合の様式をよく残しており、日本の建築文化史上貴重な遺構である」となっています。建物の残りがよかったといっても、当時はまだ例がなかった近代学校建築の指定には紆余曲折があったといわれています。先日開催された名古屋大学重要文化財馬場家住宅研究センターの研究交流会で副センター長の西澤泰彦教授は、当時の文化財保護委員会の関野克の尽力が大きかったという話をされていました。初の近代学校校舎の指定や、指定所在地からの移築など、異例尽くしの展開でしたが、地元をはじめ多くの方の尽力があつての重要文化財指定となりました。



移築直後の旧開智学校

その後、立石清重が遺した開智学校建築に関する詳細な記録資料が昭和40年に重要文化財の附指定を受けました。この指定に先だつて、当時、東京大学生産技術研究所の助教授であった村松貞次郎つげじろうの詳細な調査が行われました。村松により「建築史上はもとより、本邦教育史においても重要かつ貴重な資料であり一体にして保管されるべき」と評価されたことは重文附指定の大きな一助となりました。こうして建物と記録が一体となって明治初期の擬洋風建築を今に伝える、重要文化財となっていったのです。

教育博物館へ

昭和38年に小学校校舎としての役目を終え、その貴重な建物・資料を永く伝えていくため、教育博物館へと形を変えていきます。翌年8月31日には、市の中心部の女鳥羽川のほとりから現在地への移築修理工事が竣工しました。重要文化財の建造物を元々あった場所から移築してしまつてよいのか、という議論が沸き起こりましたが、高層化する商業施設の立ち並ぶまちなかより、現在地の方が保存管理に適していると判断され、解体してからの移築工事が行われました。竣工後は、資料の運び込みや館内の整備が急ピッチで進められ、翌年4月の開館を迎えます。同年8月には皇太子時代の今上陛下がご見学されるなど、開館当初から注目を浴び、多くの方が訪れる松本市の代表的なスポットとなりました。現在も、学都を目指す松本市の象徴として多くの方に親しまれています。

更なる50年へ

開智学校が誕生する時、為政者は勉強すればよい暮らしができる
と学びの有用性を宣伝しました。よい暮らしの質は変わったとはいえ、今も学びはその人の人生を豊かにし、よりよく生きるためのものであることに変わりはありません。教育博物館である旧開智学校



澤柳政太郎

は、ただ教育の歴史を振り返るだけではなく、学びの歴史を通して、訪れた方一人一人がこれからのよりよい生き方を考える場でありたいと思っています。それをどう実現していくかはまだ全くの手さぐりですが、まず学びによるよりよい生き方を模索し、実践した人物を紹介する特別展を7月18日から開催します。50周年記念事業のメインとして、松本出身で開智学校にも通っていた、日本近代を代表する文部官僚・教育者であった澤柳政太郎を紹介します。

今後も試行錯誤しながら、教育博物館としての使命を果たせるように様々な活動を行っていきます。これからの旧開智学校の50年にご期待ください。

(重要文化財旧開智学校校舎 学芸員/遠藤正教)

ひとの動き

4月1日付で、次のように職員の入転出等がありました。()内は所属。

転入 よろしくお願ひします。

課長補佐 長澤 卓彦 (市民課→博物館)
 主任 樽沼さやか (松本市立病院事務部→博物館)
 主 事 高山 直樹 (維持課→窪田空穂記念館)
 事務員 麻生 沙絵 (新規採用:旧制高等学校記念館)
 嘱託 勝家 秀夫 (時計博物館)
 嘱託 田中有規子 (民芸館)
 嘱託 市川 恵一 (四賀化石館)
 嘱託 長尾小百合 (博物館)

課内異動 改めてお願ひします。

主 査 小原 稔 (博物館→山と自然博物館)
 主 事 一ノ瀬幸治 (時計博物館→博物館)
 嘱託 柳澤 一輝 (博物館→山と自然博物館)
 嘱託 矢口 恵子 (山と自然博物館→はかり資料館)

退職・転出 お世話になりました。

課長補佐 常盤井正芳 (博物館→中央図書館・中山文庫)
 課長補佐 中原 和彦 (博物館→環境業務課)
 主任 中澤佐保子 (山と自然博物館→高齢福祉課)
 主任 小林明日美 (窪田空穂記念館→文化財課)
 主 事 原野 瑞江 (博物館→退職)
 嘱託 丸山 廣登 (民芸館→退職)
 嘱託 遠山 順次 (時計博物館→退職)
 嘱託 一志 良子 (はかり資料館→退職)
 嘱託 齋藤 由里 (旧制高等学校記念館→退職)
 嘱託 水城 拓実 (山と自然博物館→退職)
 嘱託 水城 南 (博物館→教育政策課)



ガイドコーナー はんてんぼく



工芸の五月参加企画

[会期]4月25日(土)~5月31日(日)
 ※民芸館のみ4月21日(火)~6月7日(日)

全て通常観覧料で
 ご覧いただけます

松本市立博物館	松代焼—北信濃が生んだ至宝
旧開智学校	文明開化の職人技~旧開智学校校舎の魅力~
松本民芸館	刺し子
はかり資料館	中町と民芸
歴史の里	竹細工とはこもの展

※休館日:松本市立博物館は期間中なし、旧開智学校は第3月曜日、その他の館は月曜休館となります。

松本民芸館から ☎0263-33-1569

講演会「初級民藝論」

民藝の美とは? 柳宗悦とは? 今に生きる民藝とは? 初めての方にもわかりやすくお話をします。

日 時 5月17日(日)午後1時30分~午後3時
 会 場 松本民芸館
 定 員 30人
 料 金 通常観覧料(大人300円、中学生以下無料)
 講 師 村上豊隆氏/日本民藝協会
 申 込 み 電話で松本民芸館へ



みずすず細工の行李

用の美市

信州の伝統を受継いだ職人たちの竹細工・やきものなどを展示販売します。

日 時 5月30日(土)~6月1日(月)
 会 場 松本民芸館中庭



時計博物館から ☎0263-36-0969

時の記念日企画展「時計博物館 収藏品展2015」

会 期 5月23日(土)~6月21日(日)
 会 場 松本市時計博物館
 料 金 通常観覧料(大人300円、小中学生150円)

旧制高等学校記念館から ☎0263-35-6226

第52回あがた美術会展

会 期 5月16日(土)~6月14日(日)
 会 場 旧制高等学校記念館1階ギャラリー
 料 金 無料(常設展は通常観覧料)

山と自然博物館から ☎0263-38-0012

野鳥観察会

春のアルプス公園で野鳥観察会を行います。

日 時 5月23日(土)午前9時~午前11時
 会 場 アルプス公園
 定 員 15名(定員になり次第締め切り)
 参加料 大人300円、中学生以下無料
 講 師 丸山 隆氏(前 信州野鳥の会会長)
 申 込 み 5月8日(金)から電話で山と自然博物館へ

歴史の里から ☎0263-47-4515

近代化を支えた製糸業展

会 期 5月16日(土)~6月28日(日)
 会 場 歴史の里
 料 金 通常観覧料(大人400円、中学生以下無料)

あとがき

4月1日に旧開智開館50周年記念で塔屋の鐘を鳴らしたら、懐かしいと聞きに来てくれた卒業生の方が何人か。半世紀以上経っても鐘の音ははっきりと心に残っていることに驚かされました。また5月6日にも鳴らしますので、ぜひ聞きにきてください。(M.E)

あなたと博物館 No.198

発行年月日/平成27年5月1日
 編集・発行/松本市立博物館
 〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133
 URL: http://www.matsuo-haku.com
 e-mail: mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp



印刷 川越印刷株式会社